

7/6
(月)

豊かな海を未来へ！ 美ら海クリーン活動



新型コロナウイルスの感染拡大による、観光客減少の影響を受けている本市のマリン事業者にも、サンゴの植樹と海中清掃を委託し、沖縄の豊かな海を保全するための活動を行いました。10日間で、サンゴ300株の植え付けと、4tもの海中ゴミを回収することができました。今後もマリン事業者と連携し、沖縄の重要な観光資源である海の保全に努めていきます。

7/17
(金)

もっている技術で、市民へ貢献 認可外保育園へ清掃ボランティア



お掃除本舗の宜野湾東店と宜野湾西店が合同で、市内認可外保育園を対象に清掃ボランティアを行いました。宜野湾東店の仲村マネージャーは、「このような状況の中、市内業者として私たちのもっている技術で、保育園の園児や保護者の皆さんが安心していただければと思います」と語りました。清掃除菌作業は、部屋の隅々から園児たちの使う様々な物まで丁寧に行われました。

7/29
(水)

守り神として、利用者を元気に 「シーサー像」寄贈への感謝状贈呈



昨年完成した宜野湾市立多目的運動場を記念して、株式会社清風堂(上里正俊代表取締役社長)より「シーサー像」2体の寄贈がありました。上里社長は、自粛や制限などの大きなストレスを抱える社会情勢の中で、利用者に元気になってもらい、「守り神」として疫病をはねのけてほしいと思いを語りました。株式会社清風堂からは、平成2年にも「はごろもの像」を寄贈いただいており、現在も市役所1階ロビーに設置されています。

7/30
(木)

温かいご支援、ありがとうございました 子どもたちへ食料品の寄贈



株式会社テンポンドジャパン(上原正彦代表取締役社長)より、スパゲティやシリアルなどの食品セットの寄贈がありました。上原社長は、「お菓子も入っているので、食べ物を通して子どもたちが笑顔になってほしいです」と語りました。食料品は、火を使わず簡単に作れる品を選んでおり、同社の職員により手作業にて箱詰めされています。寄贈された食料品は、新型コロナウイルスで影響を受けた家庭に配布されます。

去年の9月、厦門に到着したその日から毎日中国語を使う日々が始まりました。始めは全く聞き取れず、喋れず、意思疎通ができずに悔しい思いをするのがたくさんありました。離れた場所にいるので、直接コミュニケーションをとることはありませんが、今では翻訳機を使わずにやり取りができるようになりました。約半年間、現地でも中国語を学んできましたが、まだまだ私の中国語は未熟です。ですが、これから先、観光で訪れる中華系の方々、言葉が少しでも理解できるようになったこと、偏見がなくなったことは自分自身の大きな成長に繋がりました。

厦門留学を通して多くの友達に恵まれました。全く言葉の通じない異国で半年間を過ごすことができたのは、友達の間があったからに他なりません。中国人学生や留学生のクラスメイト、学校外においても多くの方と交流することができました。私の拙い中国語を一生懸命理解しようとしてくれたり、日本語を覚えようとしてく

留学記 ニイハオ!

アモイ 中国厦門市 その4

第18期 海外留学生 末吉 りんか



留学生集合写真

冬休みに帰ってきたタイミングで新型コロナウイルスが流行し、厦門で1年間を過ごすことはできませんでしたが、半年の留学生活は私にとって一生の宝物になりました。今回18代目として厦門留学をする機会を与えて頂きました宜野湾市民の皆さま、そしてサポートしてくださった宜野湾市役所の皆さまに感謝します。本当にありがとうございました。

れたり、本当に周りの優しさに支えられていました。海外での暮らしは異なる価値観や考え方に戸惑う場面もありましたが、それ以上に人間の温かさを感じた半年になりました。厦門の生活で私が最も驚いたカルチャーショックに触れさせていただけます。中国では「オンライン決済サービス」が広く普及しています。スーパーの買い物はもろろん、電気やガス、水道などのインフラ、映画や航空券の支払い、さらには個人への送金まで、決済できないものはないというほどです。私の周りのほとんどの方が現金を持ち歩かずに生活していま



留学生仲間と



授業風景